

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500078		
法人名	(有)シーシー商会		
事業所名	グループホーム白寿		
所在地	八街市東吉田561-74		
自己評価作成日	平成24年12月08日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園王町1107-7		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○優しく、穏やかに、笑顔で…をモットーに事業所として、力を入れ取り組んでいます。  
 ○利用者の健康状態を常に把握し、医療機関と連携を図り月1回の外来受診・投薬・必要に応じて 往診依頼・24時間体制の支援を行っています。  
 ○近くのサービスの催し(バザー・盆踊り・運動会など)参加し楽しく交流させて頂いています。  
 ○昨年同様、花畑・菜園・種まき・収穫とそれぞれに自分の出来ることを無理なく楽しんで、生活を実感して頂ける様支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは八街駅からほど近い新興住宅地と畑地の間にある。建物はゆったりしており、利用者は落ち着いて過ごしている。地元出身の職員が多く、地域との関係性もできている。また、毎日職員がつくる「今日の目標」を意識しながらケアにあたっている。職員は交代で利用者の外出の機会を作っており、車で行く食材などの買い物には、なるべく利用者に同乗してもらい一緒に出かけるようにしている。食事は、職員と利用者が一緒につくった野菜をメニューに入れ、家族のように会話しながら楽しく食事をしている光景が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の環境になじみ楽しみのある生活を支援している。 利用者笑顔で向き合い、理念は共有していく。	理念を「人間性の尊重」という介護の基本方針に落としこみ、より具体的なものになっている。介護の基本をもとに職員全員がケアにあたっている。また、職員が毎日考える「今日の目標」も理念の実践に役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんと話し合いの場を多く持つようにして、地域のつながりを深めたい。 事業所を知って頂き、何かあった時は近隣住民より連絡頂ける様交流を持っている。	地域の人から芋や大根などの差し入れがある。また、民生委員の総会で、事業所の活動を紹介する機会を得るなどの交流を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年キャラバンメイトの勉強会を地域の婦人部の皆様と行い、有意義な時間を共有しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H24・10・12に運営推進会議実施 地域抱括支援センター・区長・会長・民生委員の参加を頂きました。地域のカラオケ・舞踏大会参加をして見ませんかとお誘いを受けている。	今年度の運営推進会議では、地域の行事への参加やホームの看板設置に関する事、認知症サポーターの活動推進などの意見が出て有意義であった。しかし、年一回の実施に留まっている。	年一回の実施では、家族や地域との関係づくりは難しいと思われる。回数を増やす取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に出向き、パンフレットをカウンターに置かせて頂いています。 協力関係は、昨年同様行っている。	行政の担当課とは入居状況を報告し、問い合わせに応じたりしている。また、担当者がホームを訪れることもあるなど、関係性はできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束・虐待防止の研修に参加し、それを基に、社内研修を実施し職員は正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	利用者がまだ少なく、職員の日も届き、みな落ち着いて暮らしている。玄関などの施錠も含め、身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が身体拘束・虐待防止の研修に参加し、それを基に、社内研修を実施し職員は正しく理解し、虐待を見逃さず事のないよう、常に職員や利用者の訴えを傾聴し防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが、現在では対象者はいない。後見制度を学習し、いつでも後見制度を利用できるように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が契約内容・重要事項について説明した家族・利用者の要望や疑問点について、こちらから伺い、安心して利用して頂ける様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の訴えを、傾聴している。玄関先に意見箱を設置している。ご家族の御要望・御意見を伺いながら運営に反映させています。	月一回程度の家族の訪問時を捉え、意見を聞くようにしている。近くにいない家族には必要に応じ、電話で聞き取るなどしている。それぞれの家族の状況に配慮しながら運営に当たっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は何かあれば何時でもその場で、話し合いをもち、自由に話せる環境を作り、問題点は早く解決する。	気づいたことや問題点はその場で話し合い、解決することになっている。意見の合わない事もあるが、その都度答えを出して行動する事になっている。他人から学ぶ姿勢も大切にしており、管理者と職員の垣根はないことが伺える。	現場で気づき、現場で解決することは大切ではあるが、職員全員で共有する機会がないと思われる。ホーム全体で議論する場も必要と思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休を確認し、無理のないシフト制にて働きやすい環境を作り、研修などにも参加し、向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が社外研修を受けそれを基に、社内研修を開き介護の現場で、活かせるようにしている。又今後職員も研修に参加させスキルアップに努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員がケアマネ協議会の開催する勉強会、キャラバンメイトの活動を通じてより良いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、困っている事等受容する事で安心した生活と信頼関係が築ける様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をよく話し合い傾聴しながら安心して入所して頂けるように信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に今までの生活歴、現状等聞き、本人、家族がどのような生活を望んでいるかを把握し・ケアプランを立てて実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を引出し、見守りをする。自分で出来ることは自分で、出来ない処を支援し一緒に生活して行く同士として、関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は勿論、親戚、友人の面会をお願いしたい。声掛けをし、縁の途切れないよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仲良くしていた友人、近所の人、親戚の方に、いつでも気軽に面会して頂けるように対応しています。	職員が交代で外出の機会を作っている。元気な利用者とは馴染みのあるお寺や食堂などを回ることもある。食材などの買い物にもなるべく利用者に同乗してもらい、一緒に出かける機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人状況を把握し職員が間に入り乍支えあえる様に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わっても、関係は大切にしながら必要に応じて連絡は取り合えるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴え、希望、意向をよく傾聴把握に努める。困難な場合はケアカンファレンスにて、本人を含めて検討している。	一人ひとりとの対話を大事にしていることが伺われ、対話の中から利用者の希望・意向が汲み取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴やこれまでのサービス利用の経過などを把握し、本人らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活、健康管理に努め、普段と違うと感じた時は必要に応じたケアに当たる。早期に気付くを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む生き方が出来るように半年に一度、又は変化が発見された場合は本人・御家族の希望を取り入れ職員・関係者の意見を聞きながら介護計画を立てる。	介護計画を作成するにあたっては、本人・家族・医師・職員それぞれの立場からの意見、希望などを取り入れることができるように話し合いを進めている。また、状況が変化すれば、その都度、対応するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理詳細な変化に留意し、介護記録に記入。情報交換を密にし職員同士で共有しながら実践プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況やニーズに対して病院の付添い等に施設より対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧板を通じて、村祭り・夏の盆踊りその他の行事のある時は、参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所当時ご家族の同意を得てホームの協力医に月一回の定期受診をしています。本人や家族の希望を大切にし必要に応じて家族にも同行して頂き医師の説明を受けている。	認知症専門医である協力医療機関での定期受診により、健康状態を確認している。通院介助を行い、家族が同行できない場合は、後日報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、介護支援専門員(看護師の資格をもっている)に利用者の状態の変化に留意し、情報を伝え相談しながら適切な処置や受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況に応じて、ご家族・医師・ソーシャルワーカーに相談しながら、早期退院が出来るように努めています。入院時には介護サマリー・退院時には看護サマリーを交換し病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期の在り方は、お元気な内に、ご家族や本人の考え方をまとも尊重しながら今後の支援に取り組みたいと思う。	今後、利用者が重度化した場合についての希望や意向を、家族などに確認を始めている。	現在の利用者への確認と同時に、新たな利用者には契約時にホームの指針が示せるといと思われる。また、終末期についての職員研修や意見交換なども期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往歴を把握し、医師に急変時に備えての対応の仕方を確認し、職員に受診記録を通して伝えている。急変や、事故発生時対応マニュアルを作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を実施。緊急時に慌てないよう、職員が常時対応できるよう体制を整えています。運営推進会議で地域の避難場所や協力体制が取れるように話し合っている。	本年は利用者と職員とで、実際に消火器も使用した消火訓練を実施した。記録の写真からもそれぞれの役割がよくみえた。	消防署立会いの訓練の実施や、地域の協力体制の確立が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いはず、本人の希望に応じて対応する。難聴の人には聞こえる方から声掛けをし、プライバシーを損なわない様言葉かけをしている。	特に排泄介助ではプライバシーに配慮し、大げさはたらきかけはせず静かな対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易く、返事のしやすい問い掛けを心掛けています。自立した日常生活と自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のスケジュールはきまっているが、その人のペースを大切にしている。希望があれば、外出も同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	白寿農園の取り立ての野菜を菜膳として提供・収穫の喜びと重ねて皆で味わって楽しんでいる。天気の良い日は庭にテーブルを出し、野外で職員も一緒に昼食を楽しむ事もある。	利用者と職員と一緒に育て、収穫した野菜が食卓に上っている。食事中はテレビを消して、会話をしながら家族のように食事を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。摂取量の不足の方は無く、見守り、介助を職員一同で行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の残存能力に合わせ、歯磨き・口腔清拭・義歯の洗浄など支援している。月2回歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄記録を基として排泄パターンを考え、必要と思えば声掛け・誘導・介助にてトイレで排泄出来るように支援しています。	規則正しい生活や食事によって、排泄のリズムを整えるようにしている。また、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導によってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて、定期的な排便があるか確認し、運動・水分補給の声掛けを行っている。便秘症の方は、医師に相談して、便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の気分・バイタル等柔軟に対応している。時に、拒否もあるが急がず、時間をおいて声掛けすると拒否したことを忘れて入浴して頂けることもある。	体調や気分によって、入浴の順番に配慮している。また、職員と会話を楽しみながら、入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の睡眠時間を考え、一人一人の状況に応じて対応している。夜間不穏を感じた場合は、談話したり、信頼関係を大切に支援している。不眠が続く場合医師に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録・服薬情報などで、各人の内容を理解し、間違いのないように努めている。記録・服薬のファイルは、職員がすぐ見られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと車で外出、買い物等にて気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って、買い物・ドライブ等、またご家族といつでも外出できるように支援しています。	職員が買い物に車で出る時に、利用者が同行することがたびたびある。また、日常的に散歩に出かけたり、花見など季節の外出も大切にしている。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、スタッフ同行の上買い物を見守り乍自分で支払うよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今のところ利用者本人からの要望もないが、必要時には対応が出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で暮らすをモットーに、季節感を取り入れた飾りや、催しの時の写真など掲示し、心豊かになれるよう支援を続けます。	共用部分は、季節を感じられる手作りの飾りや利用者の写真が貼られている。ホームでは犬を飼っており、利用者の癒しになっていることが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居場所作りも出来、リビングではソファや一人掛けの椅子が設置してあります。外にもベンチを置いて共有しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談の上、使い慣れたタンス・気に入っている洋服・布団・枕等本人が居心地よく過ごせるように工夫はいつも忘れずしています。	居室には使い慣れたタンスを置くなど、それぞれが居心地よく過ごせるように支援している。家族には季節ごとに洋服を用意してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、トイレ・浴室に手すりを設置、居室には名札を付けています。本人の出来ること、出来ないことを把握し自立した生活が出来るようにしており、玄関にも椅子を用意して、安全に靴の脱ぐ・履くが出来るように工夫しています。		

【評価機関】